

DAIWA LETTER

45

DAIWA LETTER 45号

ダイワレター

2015年4月発行 / 株式会社ダイワハンドテックス 〒174-0043 東京都板橋区坂下1-34-27 TEL:03-3558-8131 FAX:03-3558-8132

年4回発行 / 発行部数6,000部

特集1

潜入！

JPIC読書アドバイザー養成講座vol.3

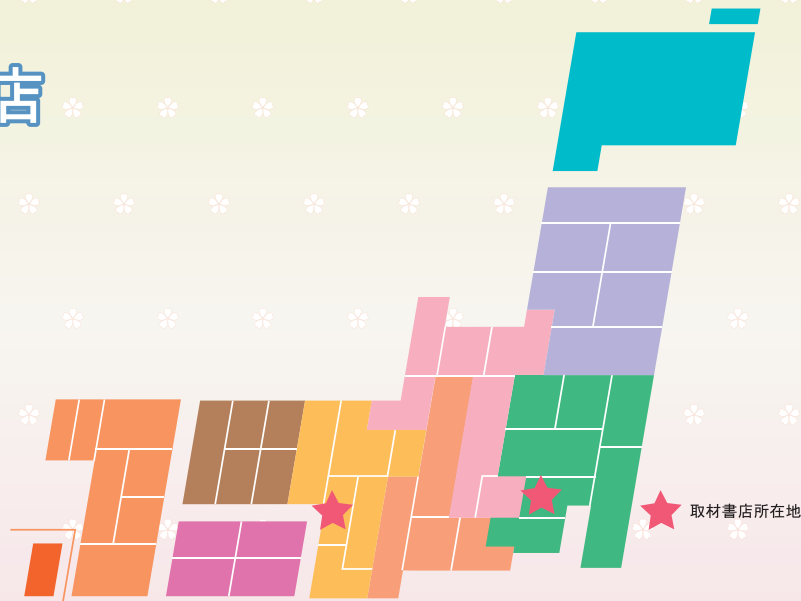
PICK UP!

芳林堂書店 鷺ノ宮駅店

professional [プロフェッショナル]

CCC TSUTAYA香里園

鈴木 正太郎さん



取材書店所在地



芳林堂書店 鷺ノ宮店

ウラ面

書店横断カッターリレー・社長のつぶやき



紐は切っても縁は切れない

書店横断カッターリレープロジェクト

◆企画説明◆

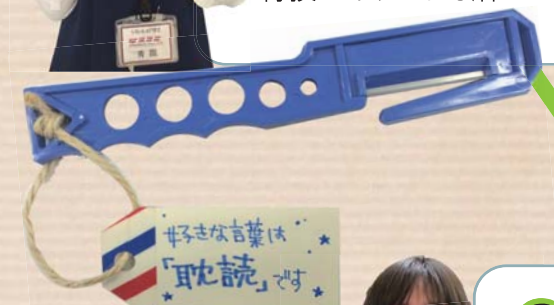
44号からスタートしたこの企画。ダイワ社員が全国の書店を訪問し、カッターリレーを行います！書店員さんのカッターを他の書店員さんのものと交換し、さらにそのカッターを別の書店員さんと…前回最後は、東京都大盛堂書店の山元さんでした。



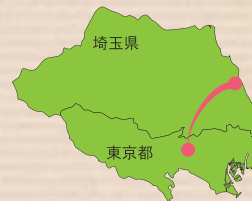
7 須原屋 春日部店
書店員歴 3年
秀間さん

Q: 書店のココが好き！

本に囲まれて仕事ができる...それだけで幸せ！
今まで知らなかった世界に興味を持つきっかけになったり、本って素晴らしい！
特技のイラストも活かせる♪



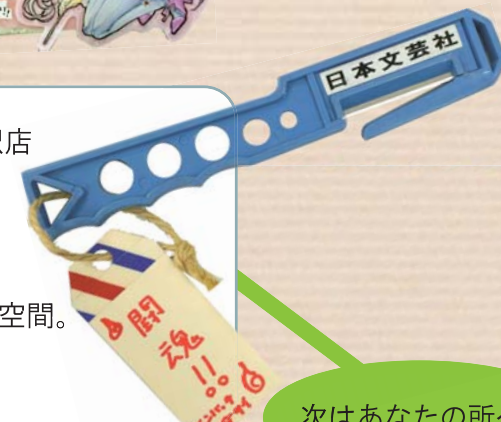
【耽読】夢中になって読むこと



8 芳林堂書店 鷺ノ宮駅店
書店員歴 15年
青木さん

Q: 書店のココが好き！

家にいるようなほっとした空間。
そんな雰囲気が好きです。



次はあなたの所へ！

社長のつぶやき

代表取締役

大石 孝一



最近では経営理念や企業理念といった組織が共有する明確な価値観を示している企業が少なくない。
創業何十年という歴史ある企業には社是とか社訓が壁によく掛かっていた。
私が新卒で入社した会社にも社訓があり、毎日朝礼で唱和していた。40数年が経った今も、強烈な印象として私の記憶に残っている。

一、人生は勝者には楽しく、敗者には悲惨な道だ。
二、君も私もお互いを信頼し、その信頼に背かないことを誓おう。
三、言い訳をするな、創意工夫をしよう。
四、努力・執念・根性。
五、亀の歩みはうさぎより早いことを知れ。

当時は若輩の為に意識をしていなかったが、経営の真髄を示唆した具体的で力強い理念である。創業社長は引退し、今では一部上場企業となりホームページには新しいミッションステートメントが掲載されている。

最近、若手経営コンサルタントのセミナーに出席した経営者に聞いた話だが、起業間もない社長に経営理念の重要性を解き作成手順を指導していたと言った。確かに経営環境が厳しい現況において、組織の求心力や意思決定の判断基準を明確にするためにも必要だとは思っている。しかし引っかけりを感じた。前述の社訓は本気で仕事に取り組み、苦勞や失敗を重ね、試行錯誤の結果、体得した経験が言葉になっている。机に向い頭で考えて出来るものではない。起業当初は経営理念を考える時間があったら仕事に汗するの先ではないか。艱難辛苦の経験が経営に対する理念を創造するからである。

お便り
お待ちしております★

DAIWALETTER[ダイワレター]のご感想や、今回の取材店さんへのメッセージを募集しています。
宛て先: 〒174-0043 東京都板橋区坂下1-34-27 ダイワレター係まで！
(e-mail: info@daiwa-hi.co.jpでも承っております！)
東京本社: 〒174-0043 東京都板橋区坂下1-34-27 大阪支店: 〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-2-1
TEL 03(3558)8131(代) FAX 03(3558)8132 TEL 06(6190)5731(代) FAX 06(6190)5732

矢内: 取材・編集担当
古瀬: 取材・編集担当
高瀬: 校正担当

ついに修了式! 新たに98人の読書アドバイザーが誕生しました!



修了式では受講生を代表し、最年長受講者である福岡県「ブックイン金進堂」の長谷川澄男さんが修了証書を受け取りました。「新しい事を学ぶことは非常に有意義でした。人生今日が一番若い! 若いうちになにかやろう。」と笑顔で話す長谷川さん。

他の受講生からも「本と人々を繋いでいくことに情熱を傾けている全国の仲間と繋がれて良かった!」「読書に対する考え方の幅が広がった。」「共にがんばった仲間と離れるのが寂しい!」との声が聞こえてきました。



▲最年長修了生となった
ブックイン金進堂・長谷川澄男さん

▶懇親会の様子。
半年間ともにがんばってきたみなさん、開講式の時と比べ、長年の友達のように仲良くなっていました。今後どんな活動をして行くのか楽しみです!

▼修了証書を持ってみんなでハイポーズ★
大変だった授業も無事修了し晴れ晴れとした表情です!



■取材後記■

紙、印刷、出版、流通、そして書店、古書店、図書館…。受講生として講義に参加した半年間、まだまだココに書ききれない本に関する沢山の事を学びました。本が私の手元に届くまで何人の人が関わって来たのか…一冊の本には本当に沢山の人の想いが詰まっているんだということを実感しました。そして一番強く感じたことは、「本が好き」「本の楽しさを伝えたい」という、強い思いをもった人たちがこんなにもいるということです。

受講生の中には出版業界ではない会社員の方、主婦の方も沢山いらっしゃいました。無事修了生となった今、学んだ知識と出会った人たちの繋がりを活かし、出版業界を盛り上げていく一員として活動して行きたいと思っています。(古瀬)

◆講座受講について詳しくはコチラ◆

<http://www.jplic.or.jp/learn/advice/>



JPIC 一般財団法人 出版文化産業振興財団
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 3-12-3
神保町スリービル 8F
TEL.03-5211-7282 FAX.03-5211-7285

★受講生が紹介した本ランキング★

受講生は書評講座やアンケートなどでオススメ本を紹介する機会が沢山ありました。その中でも紹介数の多かった書籍をご紹介します♪



7票 **モモ**

ミヒヤエル・エンデ / 著

「町はずれの円形劇場あとにまよいこんだ不思議な少女モモ。町の人たちはモモに話を聞いてもらうと、幸福な気持ちになるのです。そこへ、「時間どろぼう」の男たちの魔の手が忍び寄ります…。「時間」とは何かを問う、エンデの名作が堂々一位!



2 **だれも知らない小さな国**

4票 佐藤さとる / 著



3 **西の魔女が死んだ**

4票 梨木香歩 / 著



4 **星の王子さま**

3票 サン・テグジュペリ / 著



- ・赤毛のアン (モンゴメリ) 2票
- ・あな (谷川俊太郎)
- ・おつきちゃんとかっぱ (長谷川摂子)
- ・風が強く吹いている (三浦しをん)
- ・紙の月 (角田光代)
- ・クシュラの奇蹟 (ドロシー・バトラー)
- ・ぐりとぐら (中川李枝子)
- ・クローディアの秘密 (カニズバーグ)
- ・獣の奏者 (上橋菜穂子)
- ・こころ (夏目漱石)

潜入!!



Vol.3 講座修了!それぞれの道へ!

JPIC読書アドバイザー養成講座

『JPIC読書アドバイザー養成講座』潜入レポート第三弾! 第一・二弾はダイワハイテックス HP でご覧いただけます。

最終回! vol.3 授業レポート!

グループディスカッション 「今後3年の 活動計画書を作りました」

最後の授業はグループに分かれて「講座修了後、今後3年間の活動計画書を作りました」というものでした。講座で学んだ事を活かし企画を考え、どのように進めていくのか具体的に考えるというものです。読書アドバイザーの認知度を高める為に『読書アドバイザー大賞』をたち上げる、アドバイザーの活動の幅を広げる為のサイトの開設、地域限定の季刊誌を発行し地域の書店を盛り上げる、などなど、他にも沢山の企画が発表されました。発表した企画は専任講師の永江 朗さんが講評、アドバイスをくださいました。「知識を付けた後はそれを行動に移さないといけない。みなさん発表した企画は是非実行してください。」と締めくくりました。



▲情報交換サイト SALON de『本』
授業で提案したサイトをなんと当日に立ち上げた受講生が…!
素晴らしい行動力!修了生の今後の活動報告や情報共有の場として今後が楽しみなサイトです★



昨年の8月に開講した第22期『JPIC読書アドバイザー養成講座』。
2015年2月2日、ついに修了を迎え、新たに98人の読書アドバイザーが誕生しました!ダイワレターでのレポートも最終回。受講生の感想や修了式の様子をお届けします!

各地から参加する受講生を紹介!



今井書店 境港店
原 知里 さん



■受講のきっかけを教えてください。

会社から案内を頂き、これからの仕事に役立てられればと候補しました。

■半年間の感想と今後の意気込みを教えてください!

人と本のかかわり方は決して一様じゃないし、これからは変化していくことを痛感しました。今後は得た知識を活かしなが、人と本を繋げるお手伝いをしていきたいと思っています。

▶原さんは懇親会にて受講生主催で行われたビブリオバトルにも参加! 平台には載らないけど面白いから是非読んでほしい本...ということでパラダイス 山元の「飛行機の乗り方」を紹介されました。



株式会社有隣堂 店売事業本部

原 朝子 さん



■受講のきっかけを教えてください。

「本屋という限られたフィールドの中での知識や人間関係だけで、本当に求められている“おすすめ”が来ているのだろうか。」という疑問を持ったことがきっかけです。訪れて頂いたお客様と本たちとの出会いを、もっともっと自信をもって演出できるようになりたい、そんな気持ちで応募致しました。

■半年間の感想と今後の意気込みを教えてください!

この半年の一番の財産は、講座を通しての色々な方との「出会い」でした。司書、読み聞かせボランティア、出版社、書店、そして本と全く関係のない環境で働かれている皆さんとの、頭が痛くなるほどの熱い議論が今でも思い出されます。現在は店舗デザインを中心とした店作りを業務としております。直接お客様にご提案することとはまた違う、空間・時間のご提供で「読書アドバイス」が出来るよう、切磋琢磨の毎日です。受講生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。ご活躍のお噂を耳にすることを楽しみにしております。私も、胸をはって「読書アドバイザー」と名乗れるよう、頑張ります!

●書店員歴: 6年
●担当ジャンル: 児童書
●好きな本
「いたずらっ子の本」
ミヒヤエル・エンデ

芳林堂書店ならではの取組みを紹介！

月刊芳林本

全店長で毎月決める
オススメ2冊

専属デザイナー

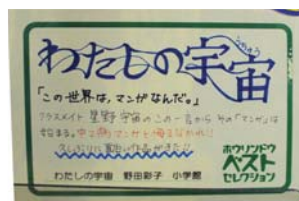
芳林堂書店の陰なる支え

月ごとに全店舗共通でオススメする本を2冊決めている。店長とエリア担当社員が毎月集まり、単行本と文庫本をそれぞれ1冊ずつ選書。フェア台にて大きく展開。売れ行きの良い本は、月が変わっても目立つ所で展開を続けている。このポスターも、専属デザイナーによるもの。

① 店内配置図②

② 2月度はこちら
男子の失言辞典 / 河出書房新社
家事の捨て方 / CCCメディアハウス

芳林堂書店では書店には珍しい専属のデザイナーさんが、全店舗の売場を支えている。棚の見出しプレートや店頭ポスターだけでなく、各店ごとの担当者さんから要望を聞いてPOPを作成することもある。



③ 手書きされたPOPをデジタルに変換して、全店舗を複製する作業も行っている



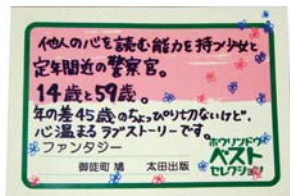
青木さん推薦コミック

『ファンタジー』著 御徒町鳩 太田出版



以前、青木さんが推薦し、セクションに選ばれたコミック。面陳したところ、単巻にも関わらず柔らかいタッチの表紙からか、女性のお客さんの反応が多くあった。

① 同店のアルバイトさんが手書きしたPOP



全コミック担当で毎月決めるコミックベスト30

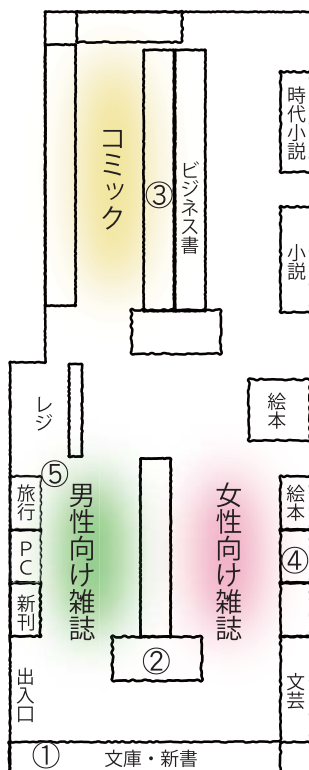
ハウリンドウ ベストセクション30

全店舗のコミック担当者が、毎月1度集まり選書しているコーナー。既刊本を打ち出すことを目的として始まった取組み。担当者さんオススメの既刊コミックを2冊持ち寄り、全員で吟味。推薦者がPOPを作成し、全店舗で大展開している。眠っている名作に出会うきっかけとなる目の離せない棚だ。

② 店内配置図③



店内配置図



店長オススメの1冊

『サファリ』大日本絵画
角度を変えるとまるで動物が走っている様に見える仕掛け絵本。ページをめくる度に迫力満点！

今

青木さんオススメの1冊

『イノサン』太田出版
フランス革命の時代、死刑執行人を勤めた主人公シャルル。残酷な処刑に隔された苦悩や人への愛が美しく描かれている。

中野区特集の情報誌

『TOMagazine』
ハイパーローカルな東京23区シティカルチャーガイド。表紙の長澤まさみさんは、中野の中学校に通っていたんですよ。

〒165-10032
東京都中野区鷺宮3-1-51(鷺ノ宮駅3F)
TEL 03-53327140 58



PICK UP! 芳林堂書店 鷺ノ宮駅店

東京都、神奈川県、埼玉県で13店舗を運営する芳林堂書店。今回は25坪の駅ビル店舗である鷺ノ宮駅店の店長の治田さん、コミック担当の青木さんに、芳林堂書店の取組みとお店の工夫をお伺いしました。

治田店長への質問です

鷺ノ宮はどのような町ですか？

東京都中野区にある住宅の多い街です。駅周辺は学生が少なく落ち着いています。駅の下にある商店街はお年寄りのお客さんが多い印象ですね。

開店してからお店に変化はありましたか？

3年前の4月19日木曜日に開店しました。当時の閉店時間は22時でしたが、その後鷺ノ宮駅の利用客層である40代〜50代の男性の利用率が高まり、30分営業時間を伸ばすほど、必要とされるようになっていきました。

店内の本の住み分けについて教えてください

25坪なので置ける商品の数は限られてしまっていますが、一通りのジャンルを取り扱うよう意識をしています。店内入口近くには、メインターゲットである男性向けのスポーツや音楽雑誌を、その裏手に女性向けの商品を置いています。その他にも、比較して購入すること難しいですが、「こ」に来れば欲しい本がある」と思っていたら、小説や雑誌だけではなく、旅行情報誌や園芸書籍、絵本も取り揃えております。

① 詳しい店内の配置は左下へ

今後のお店作りへの意気込みを教えてください
本屋さんが少なくなるだけでなく、これからは高齢化社会になっていきます。その環境でも書店を長続きさせるには、「お客さんとの距離が近い本屋さん」である必要があると思います。駅の3Fという立地ですが、駅の利用客だけでなく商店街を利用されるお年寄りの方にも気軽に寄っていただき、愛されるような本屋さんでありたいですね。

コミック担当者青木さんへの質問です

鷺ノ宮店ならではの取組みを教えてください

お客さんからの新刊発売の問い合わせが多かったことをきっかけに、主に人気作品や聞かれそうな作品には、最新刊の情報を記入したPOPを付けています。発売開始1ヶ月前から掲示を始めたところ、大幅に問い合わせ回数を減らすことが出来ました。



▲コミック棚の一部。タイトル脇には、発行刊数と次回の新刊発売日が記載されている

コミック売り場はどのような存在ですか？

コミック売り場を管理しているのが私一人という点では、私のお店のようない意識があります。手をかける度に商品をわが子のように感じますね。今か、今かと里子に出る日を待っています(笑)

今後の売り場作りへの意気込みを教えてください

現在は、人気シリーズや映像化された商品など需要を意識して棚を作っています。しかしそれだけではなく、自分が読んで面白いと思う本を薦めていきたいなと思います。お客さんが鷺ノ宮店に来て初めて知る本が増えるよう、そして手に取っていただけるように橋渡しをしていきたいですね。



- ① 話題の文庫、新書コーナー
- ② 中野区の情報誌や月刊芳林本
- ③ ホウリンドウベストセクション30
- ④ 料理や園芸などの実用書
- ⑤ 国内、海外旅行情報誌



④ ふらっと一人旅行向けも、友達とのガッツリ計画的旅行向けも、旅行スタイルに合わせた本をひと棚にギュッと集結。

⑤ 料理、園芸、健康、インテリアなど女性が日常で気になるジャンルが並んでいる。通勤途中に読める、バッグサイズも揃えている。

また、吉本のお笑い芸人“たけだバーベキュー”さんをお招きし店頭でバーベキューをしました（笑）たけだバーベキューさんがバーベキューの実用書を出版された際、お願いをしたところ実現できたイベントです。焼いたお肉は来店したお客さんにふるまい召し上がっていただきました。店頭で肉が焼けるのであれば、ある程度ことは本屋で出来るなど確信しましたね。

今後の課題と展望を教えてください。

現在は、香里園店と東香里園店を担当しています。香里園店の書籍担当スタッフは22名おり、全員とコミュニケーションを取るには時間を合わせるのが難しいです。しかし、誰かを介して伝えようと、本人に届くまでに想いの熱が冷めてしまいます。遅番のスタッフとも、10分でも面談が出来るよう私が少し遅くまで残るなどの工夫が今の課題です。

今後も自ら考え行動できるスタッフを一人でも多く育て、一人一人を戦力化させたいですね。それが私の役目だと思っています。スタッフが楽しく売り上げを伸ばせる環境というのは、その店舗の文化として残っていくと思います。

枚方駅本店
30周年記念!!
・総数 65 枚のサイン色紙
・BBQ 芸人さんの店頭実演

▼ピンクのシャツをまとっているのがたけだバーベキューさん。たくさんのお客さんが興味津々にコンロを囲っています。煙っている！

▼著者さんから寄せられたたくさんのサイン色紙。まるで、コミックの主人公達が祝っているかのような賑やかさ！



▲実演販売ならぬ、実演配布！超本格的に焼いたお肉が美味しくないわけがないっ！



▲「豪快バーベキューレシ」たけだバーベキュー（著）池田書店（出版）



▲なんと「ジョジョの奇妙な冒険」の作者、荒木飛呂彦先生からも！

鈴木正太郎 2つの心得

闘魂注入

日々の業務が忙しいと後回しにされがちな教育。しかし！鈴木さんは、後輩スタッフが目標についてこられるように牽引し、後押しをしている。先輩の背中を見て学ばせるのではなく、愛情をもって向き合い教育する状態を「闘魂注入」と呼ぶ。注入後にスタッフが自主的に学ぶ姿が鈴木さんのヤル気につながっている。

見逃し三振よりも、空振り三振

以前、上司から言われ鈴木さんが奮い立たったこの言葉。目の前の難務を無理だと諦めて見送るのではなく、まずは食らいつくこと！結果が空振りであっても、その経験は次につながってゆく。もしダメだったら、バットの振り方を工夫してみればいい。熱き言葉だ！



鈴木正太郎さんの

いちおし☆BOOKS

【作品紹介】

元刑事である奥野は、現役時代の上司から潜入捜査の依頼を受ける。そこから見知らぬ男女と傷付いた犬との擬似家族生活がスタートする。やがて明らかとなってくる闇の組織と潜入捜査の狙い... 奥野の刑事魂が甦る。

【オススメ理由】

悩みを一人で抱えていた登場人物達が、やがて家族と呼べる仲間と共に変化をしてゆく様が美しいストーリーです。また、人間不信の元警察犬が少しずつ心を開いてゆくところにもグッとくる1冊です。



約束の森 沢木冬吾（著）/ 角川文庫

目を惹くこちらの帯。なんとチェーンの垣根を越えて、熱き書店員7名が感想を持ち寄り、絵を添えてオリジナルで作ったもの！

帯のウラには鈴木さんのコメントが！

丁寧に描かれた日常から一気に加速していきます。3度泣きましたマクナイトー！ (TSUTAYA 枚方駅前本店-鈴木正太郎)



関西カンパニー 関西直営支店 TSUTAYA香里園店 兼 TSUTAYA東香里店

※2014.3.3取材時

すずき しょうたろう 鈴木 正太郎さん

茨城県出身。書店員歴11年。

スタッフへのマネジメント力の不足により店舗の異動を命じられたことをきっかけに、人材育成やスタッフとのコミュニケーションを強化することを決心。現在はスタッフを他店舗へ連れ出して勉強会を行うなど、自ら考え行動できるスタッフ作りに力を入れている。

身体を動かすことが好きで、社内で自転車部を設立。メンバーと共に遠方へ行くことが目標。

大阪府寝屋川市にある香里園。ここには6年前に書籍部門を取り入れリニューアルオープンした TSUTAYA 香里園店がある。店舗の向いは高層マンションや大きな大学病院が最近建てられ、ベッドタウンエリアとなっている。一方、店舗の裏手には昔ながらのお店が集うディープな大阪を感じることが出来る商店街がある。今回は、香里園店と東香里店の2店舗の運営に携わり、スタッフの教育に全力を投じている鈴木さんにお話を伺った。



書店員になったきっかけを教えてください。

大学時代に、図書館司書と学芸員の資格を取得していました。が、狭き門である図書館司書になることは現実的には難しく、卒業後に地元にては何も始まらないと思い、神奈川県へ引越しをしました。しばらくは、横浜の書店でアルバイトをしていました。

その後、現在の会社へ入社し、レンタルのみの店舗で売り場を担当しました。レンタルで何をやっていくか悩んでいた時に、上司から「レンタルと書籍を合わせた複合店舗となる、町田木曾店の立ち上げに携わらないか」と誘いを受け、「やります」と即答しました。これをきっかけに書店員の道を歩み始めました。その上司が私が司書の資格を持っていることを知っていた声を掛けてくれたんです。まさか卒業して何年も経ってから資格が役に立つとは思わなかったですね。

スタッフとのコミュニケーションをとるようになったきっかけを教えてください。

馬事公苑店の改装準備に携わった時のことです。改装終了後はこの店舗に勤務すると思っていました。しかし、オープンの翌日には規模の小さな新橋店への異動を命じられてしまいました。当時の自分の能力に対して、馬事公苑店の規模が大きすぎた為でした。

今思えば、自分の考えを持って行動することが出来ていませんでしたね。後輩と作業の連携が必要となる中、コミュニケーションも上手く回れていなかったです。作品の知識はあり売り場作りには自信を持っていましたが、人をマネジメントする運営面では能力不足だということに気が付きました。自分で店舗のことやスタッフのことを考えられないままでは、店舗の運営は出来なかったと思います。

これをきっかけに、マネジメントの勉強をし、以後配属された店舗ではスタッフとのコミュニケーションを徹底しました。業務が円滑に進むようになり、自信

が付ききましたね。その後、関西直営支店から「運営に強い奴をくれ」との要求があり、私が選ばれ関西へ異動してきました。

具体的にどのような「コミュニケーションを図っていますか？」

私が伝えたい意図を、スタッフが確実に理解し行動できるような接し方を意識しています。直接かつ、回数を重ねるのが一番ですね。

以前、スタッフの人数が少ない小規模の店舗で勤務をしていた時のことです。一人一人の考えを売り場に反映させやすい一方で、目標とずれた考えも全体に浸透しやすいことを感じました。なので、開店前にスタッフ全員で話す時間を設け、各自のやりたいことを受け止め、店舗の目標と差がないか確認をしていました。私と考えが異なった場合、お客さんにとって最善なのはどちらなのかを繰り返し話し合い、お互いが納得して仕事にとりかかれるようにしていました。

現在は、スタッフの視野を広げられるように、時間をかけて教育をしています。一緒に他店舗へ売り場を勉強しに行き、成功事例をなるべく共有しています。お客さんや商品の動向を気に掛けるようにスタッフの意識を変えられたり、仕事のやりがい伝えられたときは一番嬉しいですね。

これまでに挑戦したことを教えてください。

TSUTAYA 発祥であり、最も古い枚方駅前本店を担当していた際に、開店30周年を迎えました。この1年間をどうやったら笑える年に出るかを考え、色々イベントを行いましたね。

出版社さんの協力を得て65人の作家さんに、30周年記念をお祝いしたサイン色紙をいただきました。中には本店を知らない方もいらっしやったかもしれませんが、快く引き受けてくださりありがたかったですね。売り場に展示しお客さんにも好評でした。